

(中学校)

第3学年〇組 道徳学習指導案

平成〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時

在籍生徒数 〇名

指導者 教諭 〇 〇 〇 〇

1 主題名 誠実に生きる 1－(3)

2 資料名 「忘れていた手紙」 出典(「かけがえのないきみだから」学研)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

小学生段階において、内容項目1－(3)では、小学校高学年では「誠実に、明るい心で楽しく生活すること」を目標としている。そして、中学校では、「自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ」こととある。高校では、それをさらに自己の尊厳をもって、「自主・自律の精神をもって、自他の尊厳を重んじ誠実に生きる」へ発展していくことをねらいとしている。

中学校の指導にあたり、自己の尊厳に気付き、何が正しく、何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動がとれるようにすることが大切である。そのためには、悪を悪としてはっきりととらえ、それを毅然として退ける良心の大切さに気付くようにしなければならない。良い行為とは、自分にとっても他人にとっても良くなければならぬ。この意味で、自分の行為の動機の純粹さにとどまらず、その行為が及ぼす結果についても深く考えられるようにすることが必要である。自らの生き方を自らの意思で決定していくことの大切さを自覚し、自分や社会に対して常に誠実に責任をもって行動しようとする心情を養っていききたい。そして、より人間としての在り方生き方の理解と思索を深め、自他の尊厳を重んじ誠実な生き方をしようとする高等学校のねらいに繋げていききたい。

(2) 生徒の実態

中学生のこの時期には、自我に目覚め、自主的に考え行動することができるようになる。しかし、一方では自由をはき違えて奔放な生活を送ってしまったり、周囲の思惑を気にして他人の言動に左右されてしまったりすることも少なくない。また、自分自身にかかわる行為が自分や他人にどのような結果をもたらすかということ深く考えることができない面も見られる。自分のとった態度や行動から起こった失敗や誤りを、すぐに他人に責任転嫁したり、自分には関係ないことだと自らの責任を深く問うことをしなかつたりする姿勢がみられることもある。しかし、人間としての誇りをもって生きていくためには、自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつことが求められる。自分の行為の及ぼす結果について深く考え、自らの規範意識を高め、自ら律する姿勢が大切である。自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもって行動しようとする心情を養っていききたいと願い、この主題を設定した。

(3) 資料の活用について

本資料は、自分の子どもが肺動脈の狭さく症にかかり、わずか5歳で亡くした母親とその病気の手術に当たった医者として34年の歳月を隔てて送られた「手紙」をめぐる話である。34年前に、自分の息子が手術の不成功で亡くなり、そのときの思いのたけを担当医の宮尾先生に手紙に書いた。その手紙は、いつまでも宮尾先生の胸に秘められ、医者としてのその後の人生に大きな影響を与えることになる。今回の、主人公は

わが子を亡くした母親の「馬場さん」におき、相手役として担当医の「宮尾先生」とした。馬場さんの心の目を通して、息子の死を無駄にしないように生きてほしいという願いを、誠実に守っていった宮尾先生の生き方について考えることによって、誠実であることの意義と一個の人間としての誇りについて考えさせたい。

指導の視点としては、次の3つの場面を中心に話し合いを深めていきたい。

- ① 主人公が宮尾先生にその苦しみを切々と訴える手紙を書いた場面
- ② 34年ぶりに宮尾先生に会い、先生と話したときの場面
- ③ 宮尾先生から、34年前に自分が書いた手紙のコピーを読んだときの場面

①では、子を亡くした母親の気持ちを共感的に理解させたい。また、その気持ちが時間が経つにつれて、冷静さも出てきて、自分の息子が喜ぶことは何かを考え、宮尾先生に心臓の大家になってほしいと願うようになる。息子への深い愛情とその死を無駄にしてほしくない思いにも共感させていきたい。②では、自分の書いた手紙を、大切にとって医師としての反省材料にしていたと聞き、馬場さんは宮尾先生へ感謝の念を抱く。それは、わたし自身が「忘れてしまった手紙」にもかかわらず、相手はずっと心に留めていたのだ。その事実、自分の行った行為が他者に及ぼすことをも考えさせられる。この場面があり、次の場面でその手紙を目の当たりにして気持ちが大きく動かされるので、ここでの宮尾先生の人生を振り返る場面は、大事にしていきたい。退職する前であることも誠意を感じる行動である。③では、宮尾先生が、自分の願いをしつかりと受け止めてくれたことに、改めて胸が熱くなる。手紙を読み終えたあと、「徹が帰ってきた、こんな形で帰ってきたのね。」と涙ながらに語る馬場さんの気持ちに共感させていきたい。そして、徹が、先生の中で生きていたことに気付いた馬場さんの胸の内をじっくりと考えさせていきたい。

そこには、34年も手紙を大切に、医師としての責任を果たそうと誠実に生きてきた宮尾先生の生き方があった。誠実に生きることが人間として望ましい姿であることを生徒とともに考えたい。

4 ねらい

自ら考え、それを誠実に実行し、その結果に責任をもち、自分の生き方に誇りをもって生きていこうとする心情を養いたい。

5 事前指導

- ・ 朝の会の時間に、「忘れていた手紙」の資料を読み、事前に話題にしたいことを取り上げ、生徒の実態を把握するとともに、価値への関心を高める。
- ・ 心のノート P24 「中学生だもの 自分がすることは結果まで深く考える。」の項目を読み、「あなたの中のどこかに『物事を深く考えない自分』がかくれていませんか？」という問いかけに自分を見つめて書かせる。

6 本時の展開

段階	学習活動 ◎主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	1. 事前の実態調査の結果について話し合う。 ◎自分が話し合いたい場面の感想を聞かせて下さい。	・ 宮尾先生の優しさを感じた。 ・ 馬場さんが悲しくつらい思いからたちあがったのはどうしてだろう。 ・ 馬場さんの息子の死をムダにしないように考えて行動した先生はすごい。	・ 資料をあらかじめ読んでおくことにより、資料読みが深まり、授業への関心を高める。また、展開時の発問が深く考えられるようにする。 ☆本時への興味がもてたか。(表情・態度・発言)

展 開	3. 資料の登場人物、条件、 状況について知る。		・条件・状況を説明し、主人公の 立場で考えられるようにする。
	スタートの条件・状況 ・主人公 馬場陽子さん 次男の徹君 (5歳) : 肺動脈の狭さく症・・・手術を受けなければ12歳ぐらいま でしか生きられない。日本で3例成功していた。夫婦は悩んだ末に、後悔しないためにも手 術を受ける決心をした。手術をして3日後亡くなった。 ・相手方 宮尾先生 (徹の主治医)。東大病院小児科医 退職前 徳島大学医学部教授 のちに日本小児循環器学会、日本先天代謝異常学会の歴代会長の一人として名を残す。		
展 開	4. 範読を聞き、話題の整理 と確認をする。	・範読を聞く。	・主人公に注目させながら、範読 を聞かせる。 ☆資料を自分のこととしてとら え、考えているか。(発表・態度)
	5. 話題をもとに話し合う。 ①主人公が宮尾先生にその苦 しみを切々と訴える手紙を書 いた場面 ◎主人公は、宮尾先生に対し て、どんな考えをもって手紙 を書いたのだろうか。	・子を亡くした親の悲しみを訴える 手紙。 ・毎日、徹を思い出してつらい。 ・宮尾先生に対するうらみ。 ・徹をかえしてほしいという願い。 ・苦しみを切々と訴える。 ・徹君の夢や願いをかなえてあげた い。 ・徹の夢を叶えてほしい。 ・徹は宮尾先生が大好きだった。 ・徹が天国で願っていることは、宮 尾先生が、東大の大先生になるこ と。(=徹が喜ぶこと)	・生徒がどんな点に視点をおいて いるか、みていく。 ・できるだけイメージさせて、実 感をこめて発表させる。 ・宮尾先生からの慰めとお詫びの 手紙も、決して夫婦の悲しみをや わらげるものではなかったこと をおさえる。 ・馬場さんの手紙の内容は、時間 がたつごとに感情的なものから 冷静に徹の言葉を一つ一つ見つ めていることを考えさせる。
	②34年ぶりの対面の場面 ◎34年ぶりに宮尾先生に会 い、先生の話から感激した、 主人公はどんなことを考えた のだろうか。 ○なぜ、宮尾先生は、忘れた いであろう手紙を大切に持っ ていたのか。	・徹君が亡くなったとき、馬場さん からもらった手紙を『心の傷』に 医師の道を歩いてきた。 ・馬場さんは、どんな内容の手紙を 書いたのか忘れてしまっていた。 ・人の命の重さを教えるために、講 義の時には学生にも読んでやっ ている。(誠実に向き合う姿勢) ・心をもってつづなおうとしている。	・「心の傷」をもう少し優しい言 葉で置き換える。 ・馬場さんが、そのとき手紙を書 いたことは覚えていても、内容は 覚えていないことをおさえる。 ・講義をする姿勢は、命を大切に する真剣な姿勢であることをお さえる。 ・自分の願いを受け止めてくれた 感謝の念をおさえる。
③宮尾先生から、34年前に自 分を書いた手紙のコピーが送 られて読むときの場面 ◎主人公が手紙を読んで胸が 熱くなったのはなぜだろう か。	・自分の願いをしっかりと受け止め てくれた。(感謝) ・「徹が帰ってきた、こんな形で・・・」 ・徹のことをこんなにまで考えてく れた。 ・徹君の死は、自分にも責任がある と考えて、医師として長い間、私 の願いに答えようとした。 ・すごい苦勞を乗り越えてきたのだ と思う。	・徹の思いは、先生の胸の内に生 き続けていることに気付かせる。 ・医師としての使命感、いつまで も徹君のことを記憶にとどめて 同じような先天性の病気に対し て研究していく姿勢と誠実さを 忘れないでいる姿勢をとらえさ せたい。	

